聖書日課『からし種』2025.4.20－4.27

4月20日 （日） ルカ 23章	**「さて、ヨセフという議員がいたが、善良な正しい人で、同僚の決議や行動には同意しなかった」（50－51節）。**ヨセフは主イエスに死刑宣告した最高法院 70 名の議員だった。皆が死刑に賛同する中、一人だけ不賛同を表明することがどれだけ厳しい闘いと葛藤を生んだことか。「自分の十字架を背負って主イエスに従う」、ヨセフの新しい人生がここから始まった。
21日 （月） ルカ 24章	**「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された」（27節）。**このとき主イエスは旧約聖書をどのように説き明かされたのだろう。きっと、イスラエルの民だけでなくすべての民の救いを見る視点で語られたのではないか。ガザへのミサイル攻撃を正当化する人々は十字架の主から何を聴き取っているのか。
22日 （火） ヨハネ 1章	**「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」（18節）。**主イエスと出会った人びとは神の国の慈しみを親しく味わい、喜びにあふれ賛美したことだろう。しかし同じ人びとがイエスを十字架に追いやった事実を聖書は厳しく突きつける。自らの罪を見つめることなしに、私たちは神を見ることはできない。
23日 （水） ヨハネ 2章	**「しかし、母は召し使いたちに、『この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください』と言った」（5節）。**母マリアの鋭い洞察と深い信仰がここに示されている。「神の小羊」としての働きを始めた息子を察知した母は、息子が「必ず御業をあらわすはず」と信じて疑わなかった。私たちもまた「神の小羊」が何か言われたなら、そのとおりにする信仰をいただきたい。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　大井バプテスト教会
メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2025.4.20－4.27

24日 （木） ヨハネ 3章	**「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」（14節）。**モーセが旗竿の先に掲げた青銅の蛇が荒れ野の民の不信仰を厳しく裁き、救い出したように、十字架の人の子は私たちの不信仰を裁くと共に、十字架を見上げて救いを求める者に永遠の命を与えてくださる。
25日 （金） ヨハネ 4章	**「イエスは言われた。『わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである』」（34節）。**わたしは何を食べ物としているだろうか。自分の願いを実現するために注ぐ力の、いったい何分の一を神の御心を行うために注いでいるだろうか。神殿での礼拝を命の糧としていたシメオンやアンナの信仰をいただいていきたい。
26日 （土） ヨハネ 5章	**「はっきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる」（25節）。**「死んだ者」とは誰のことだろうか。ベトザタの池のほとりで諦めの中に死んでいた男は、主イエスの言葉に揺り動かされ、床を担ぎ歩く者とされた。神の子の声は墓石をも動かす。私たちも「その声を聞く者」として生きていきたい。
27日 （日） ヨハネ 6章	**「そこで彼らは言った、『それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、どんなしるしを行ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。」（30節）**わたしたちが神の業を行うためにすべきことはただ一つ。「神がお遣わしになったものを信じること」。しかし、イエスが行われた数々のことを見聞きした人々は「信じること」ができなかった。

大井バプテスト教会